

### 3 - 9 伊豆半島東部の地震活動について (3)

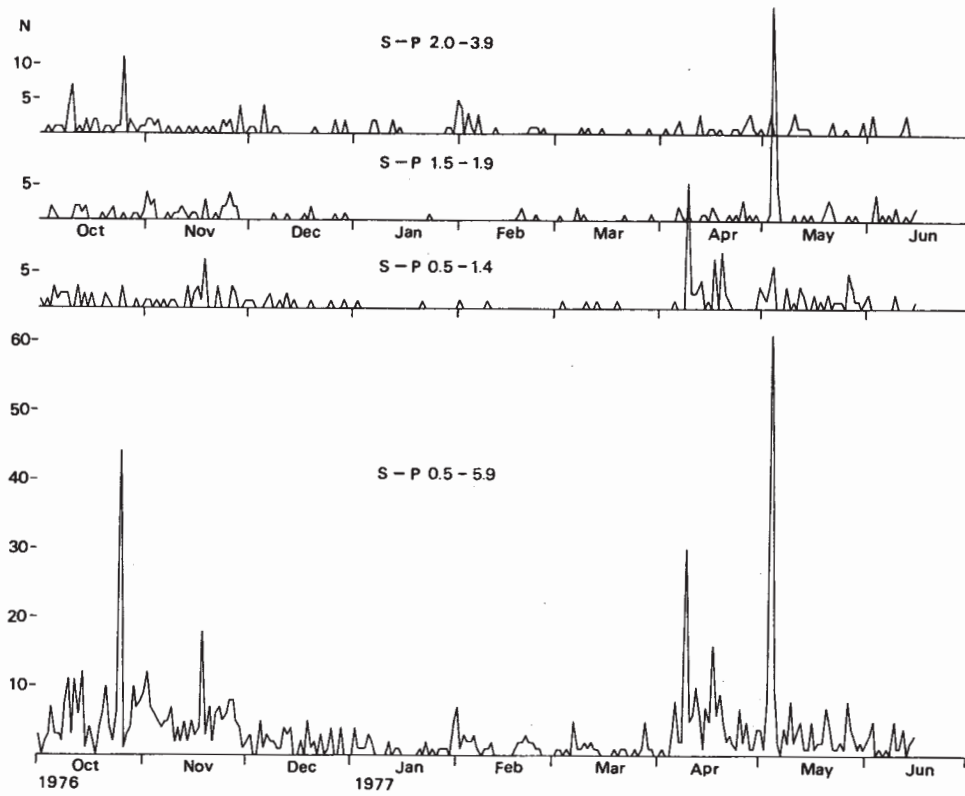
#### Seismic Activity in the Eastern Part of the Izu Peninsula (3)

気象庁地震課 地震活動検測センター  
SAMC, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

Fig. 1 は伊東市鎌田で観測した伊豆半島付近の日別地震回数の変化である。地震回数は1976年10月1日の観測開始以後次第に減少していたが、1977年4月9日と5月4日に図のように一時的に微小地震が群発した。この地震はFig. 2のようにおのおの明りように前震と余震を伴っている。しかし、今日の地震活動は持続時間が短かく、1975年10月下旬から始まった同地域の地震が、今回の地震回数に比べて2倍以上と活発であり、しかも数か月持続したのに比べると、群発地震の末期によく現われやすい現象に似ている。

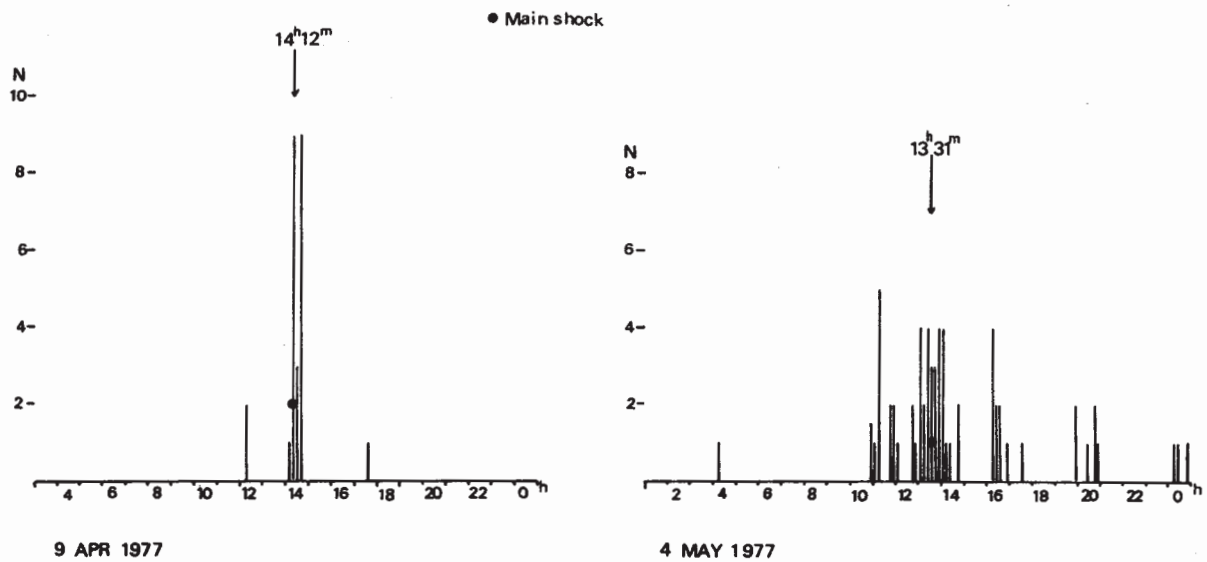
また、Fig. 3は1974年の伊豆半島沖地震以後現在まで主として伊豆半島の中部以南に発生した地震回数の変化と、1930年の伊東群発地震以後伊豆半島の中部以北に発生した地震回数の変化を、資料の均衡上大きな変化のない従来気象庁観測網（5秒、100倍の地震計）によって震源決定された地震回数で比較したものである。

これによると、1930年の地震回数はすでに報告したように、伊東群発に始って北伊豆地震の活動を経て、1932年の東伊豆地震、1934年の中伊豆の地震（南伊豆地震と呼ばれている）と変移して減衰した。そして今回の地震活動も1974年の伊豆半島沖地震に始って次第に北上し、前述の1930年以後の地震活動域の南端を北限として1976年の河津の地震を経て現在に至っているのは、空間的にも時間的にも極めて興味がある。



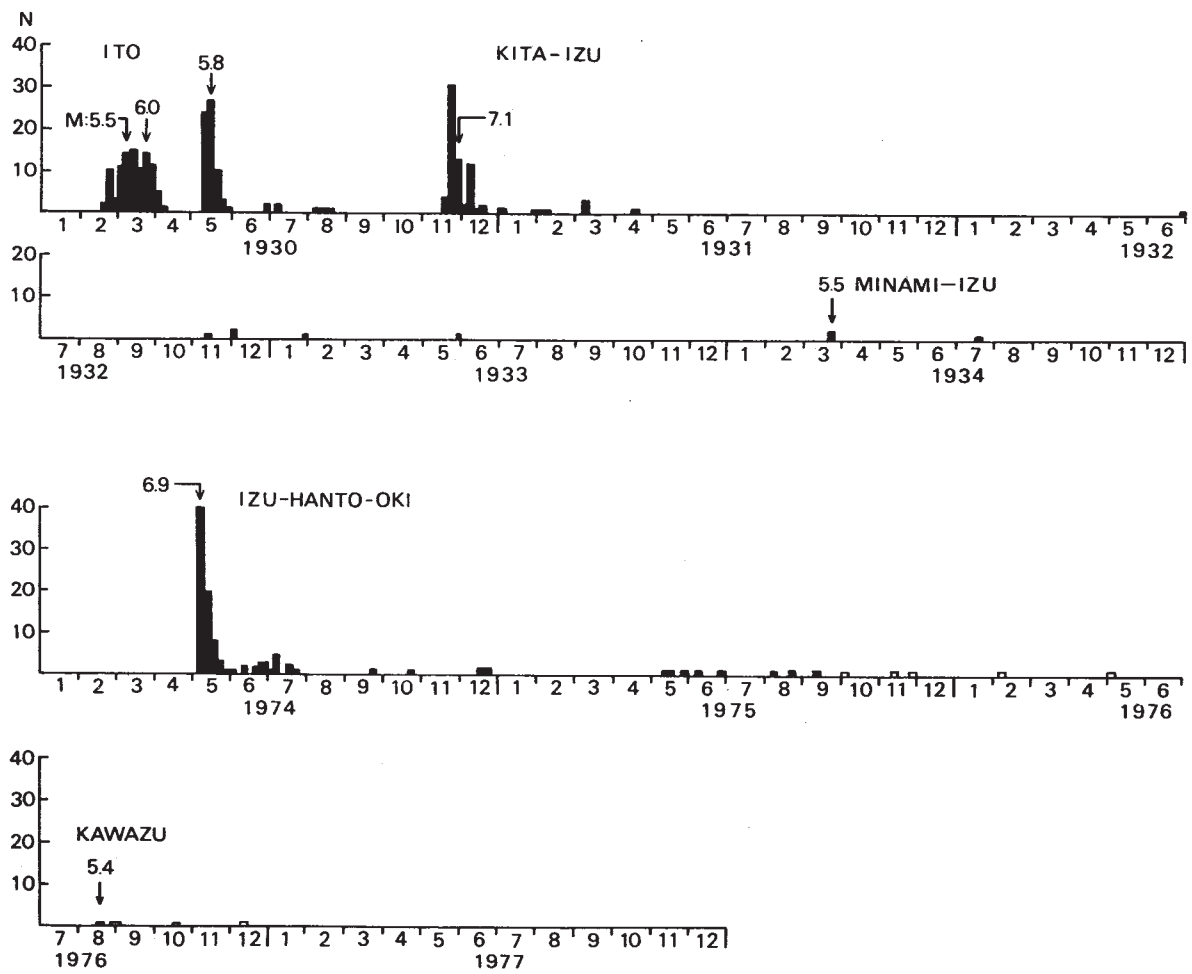
第1図 鎌田で観測した伊豆半島周辺の地震回数の変化

Fig. 1 Daily number of earthquakes near the Izu peninsula observed at Kamata.



第2図 1977年4月9日と5月4日の地震に伴う前震と余震

Fig. 2 Foreshocks and aftershocks for earthquakes of Apr. 9 and May 4, 1977.



第3図 伊豆半島付近の1930～1934年の地震活動と1974～1977年の地震活動

Fig. 3 Seismic activities near the Izu Peninsula, from 1930 to 1934 and 1974-1977.